

令和8年度 県政世論調査結果の概要

○各調査項目の概要

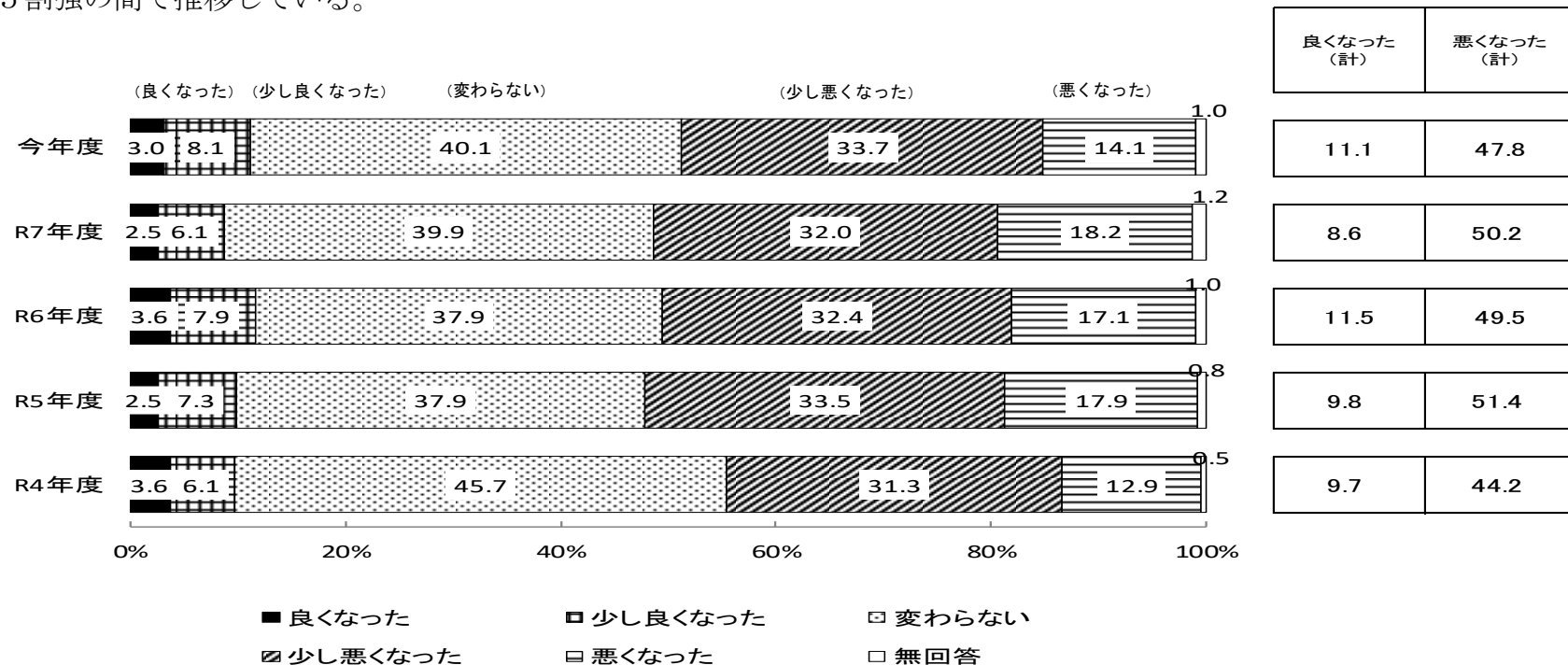
- ※ 調査結果のうち、主なものを抜粋して掲載している。
 ※ 数値は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100.0%にならない場合がある。

1 県民の生活実感

○2～3年前に比べた暮らし向きの変化

2～3年前に比べた暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった（計）』が11.1%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった（計）』が47.8%となっている。

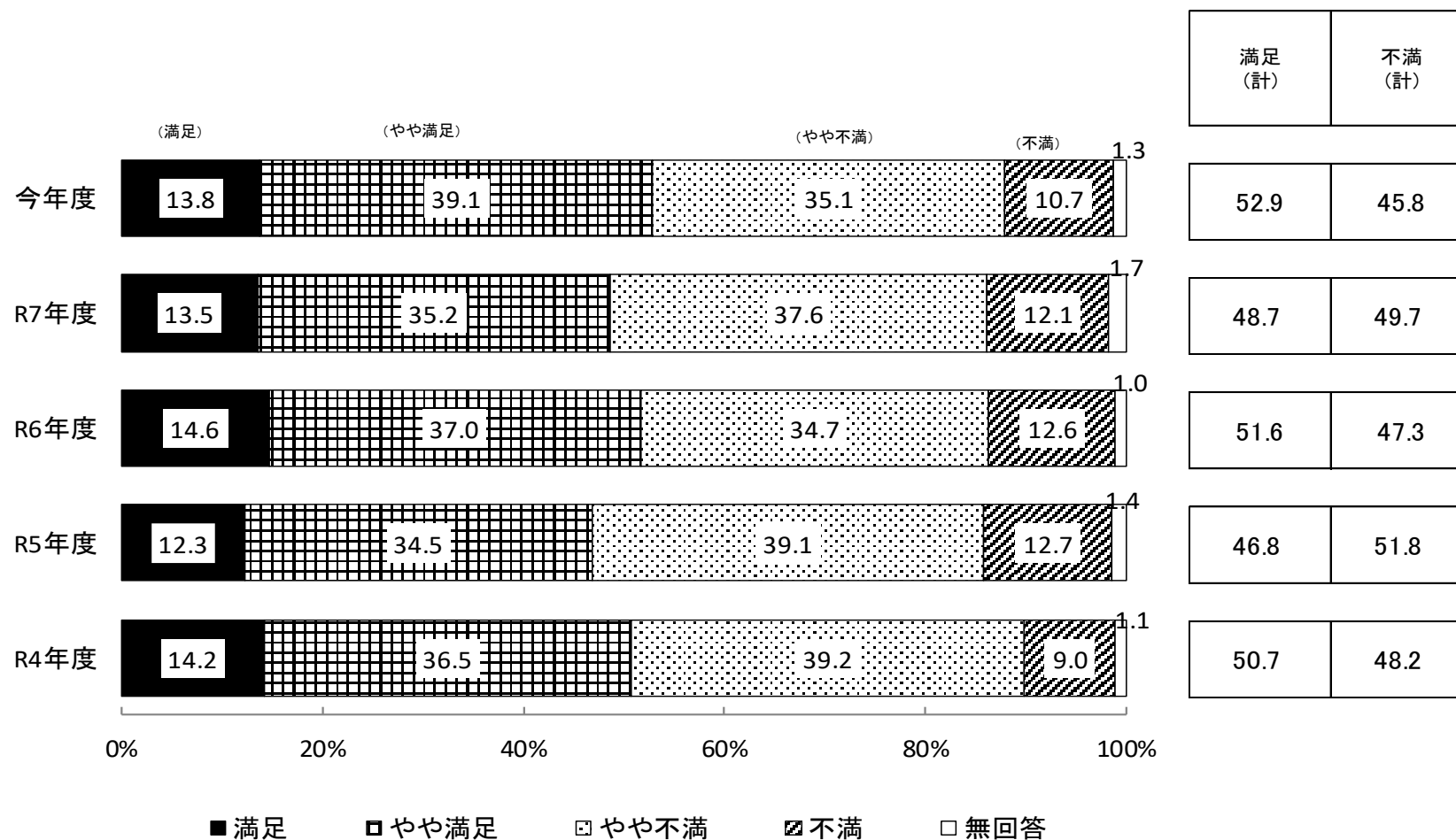
直近5年間の回答状況をみると、『良くなった（計）』は1割前後で推移し、『悪くなった（計）』は4割半ばから5割強の間で推移している。



○現在のくらし向きの満足度

現在のくらし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足（計）』が52.9%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満（計）』が45.8%となっている。

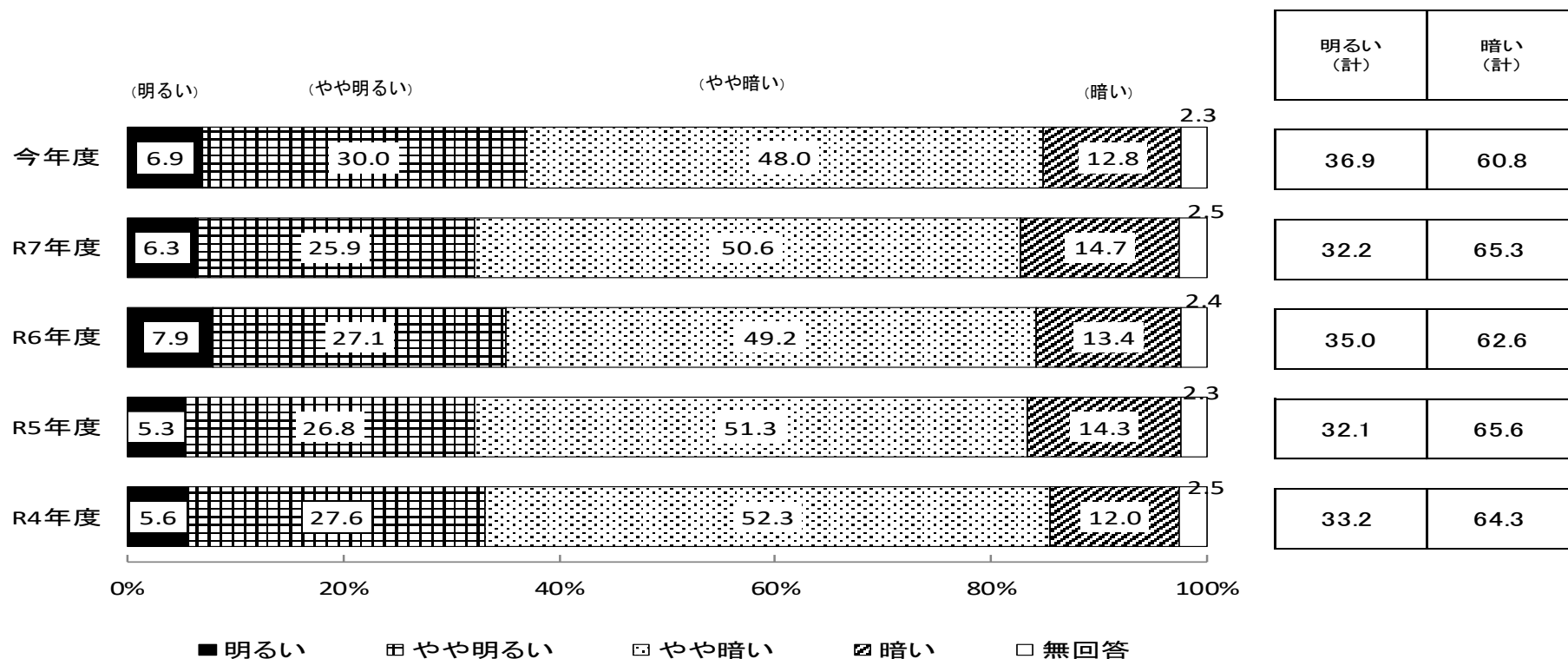
直近5年間の回答状況をみると、『満足（計）』、『不満（計）』ともに4割半ばから5割強の間で推移している。



○今後の生活の見通し

今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい（計）』が36.9%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い（計）』が60.8%となっている。

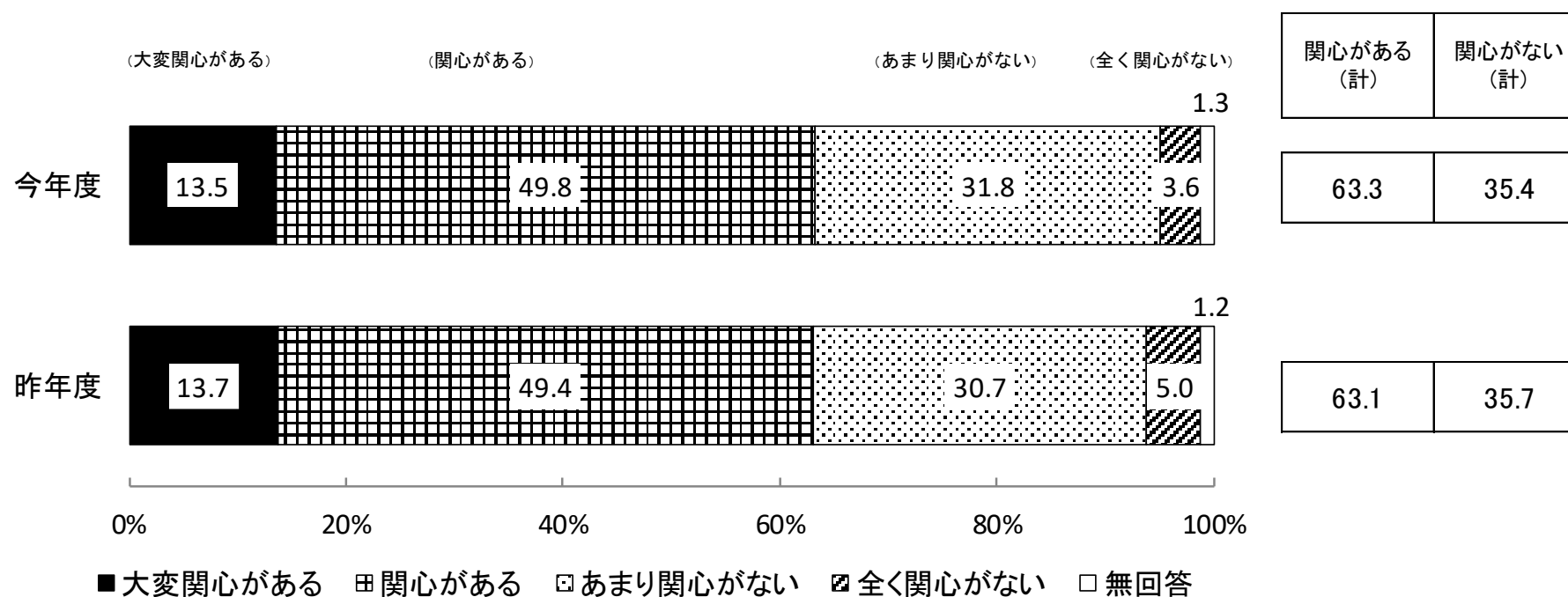
直近5年間の回答状況をみると、『明るい（計）』は3割強から3割半ば、『暗い（計）』は6割から6割半ばの間で推移している。



2 政治や経済への関心

○県の政治や経済への関心

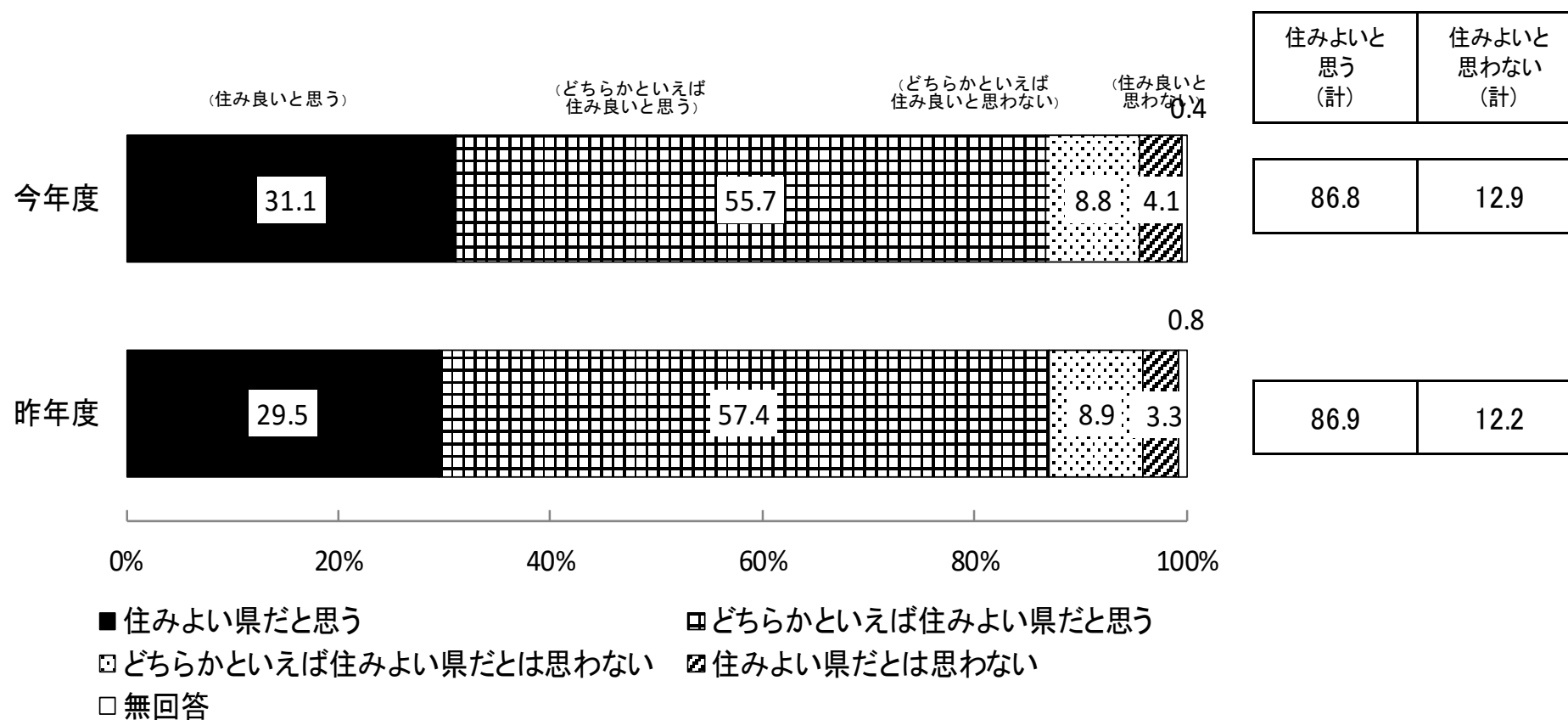
県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある（計）』が63.3%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない（計）』が35.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。



3 県の実感に対する取組

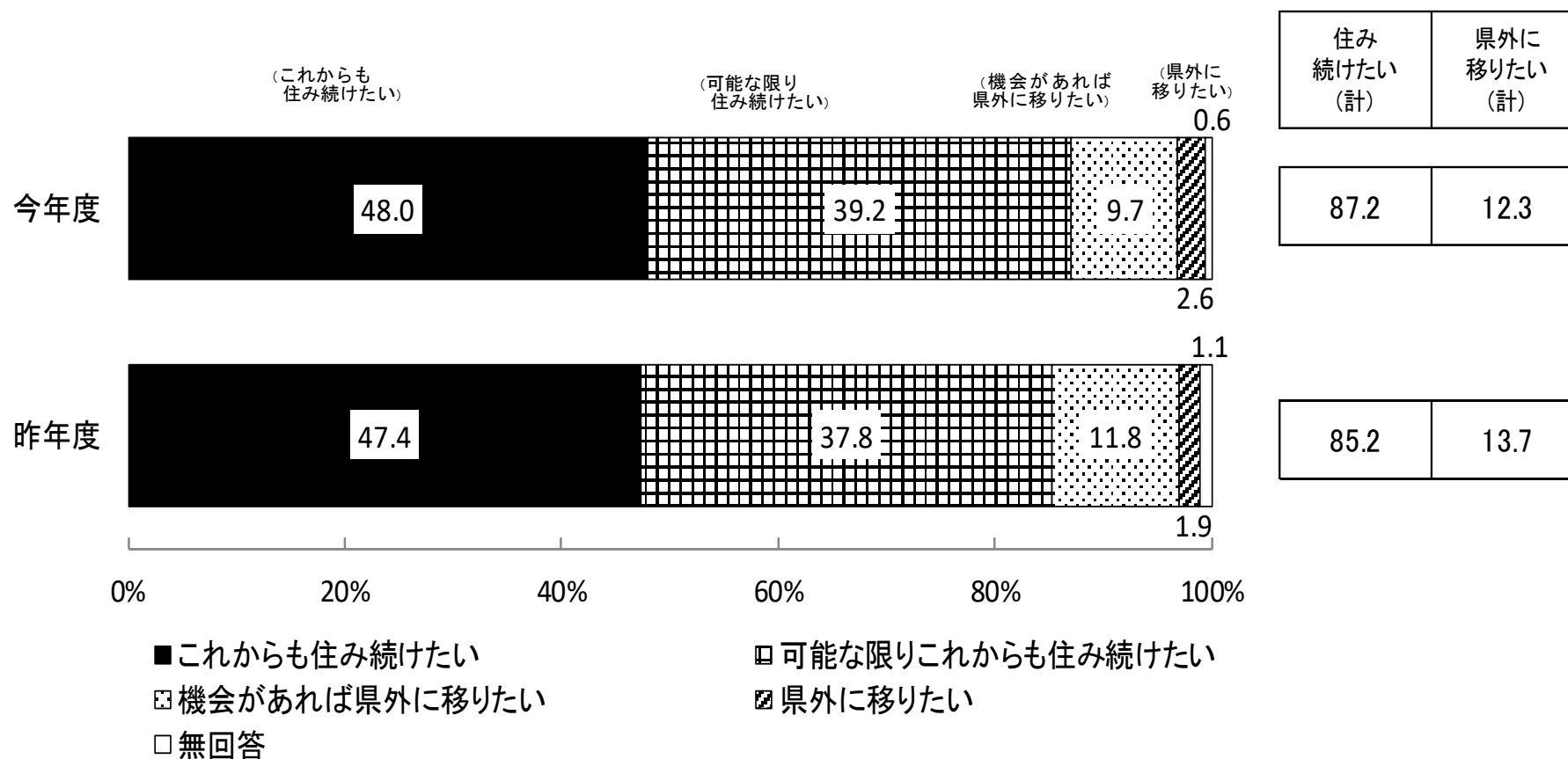
○山口県の住みよさ

山口県の住みよさについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う（計）』が 86.8%となっており、昨年度と比較すると、『住みよいと思う（計）』は 0.1 ポイント低下したが、引き続き、8 割後半の高水準にある。



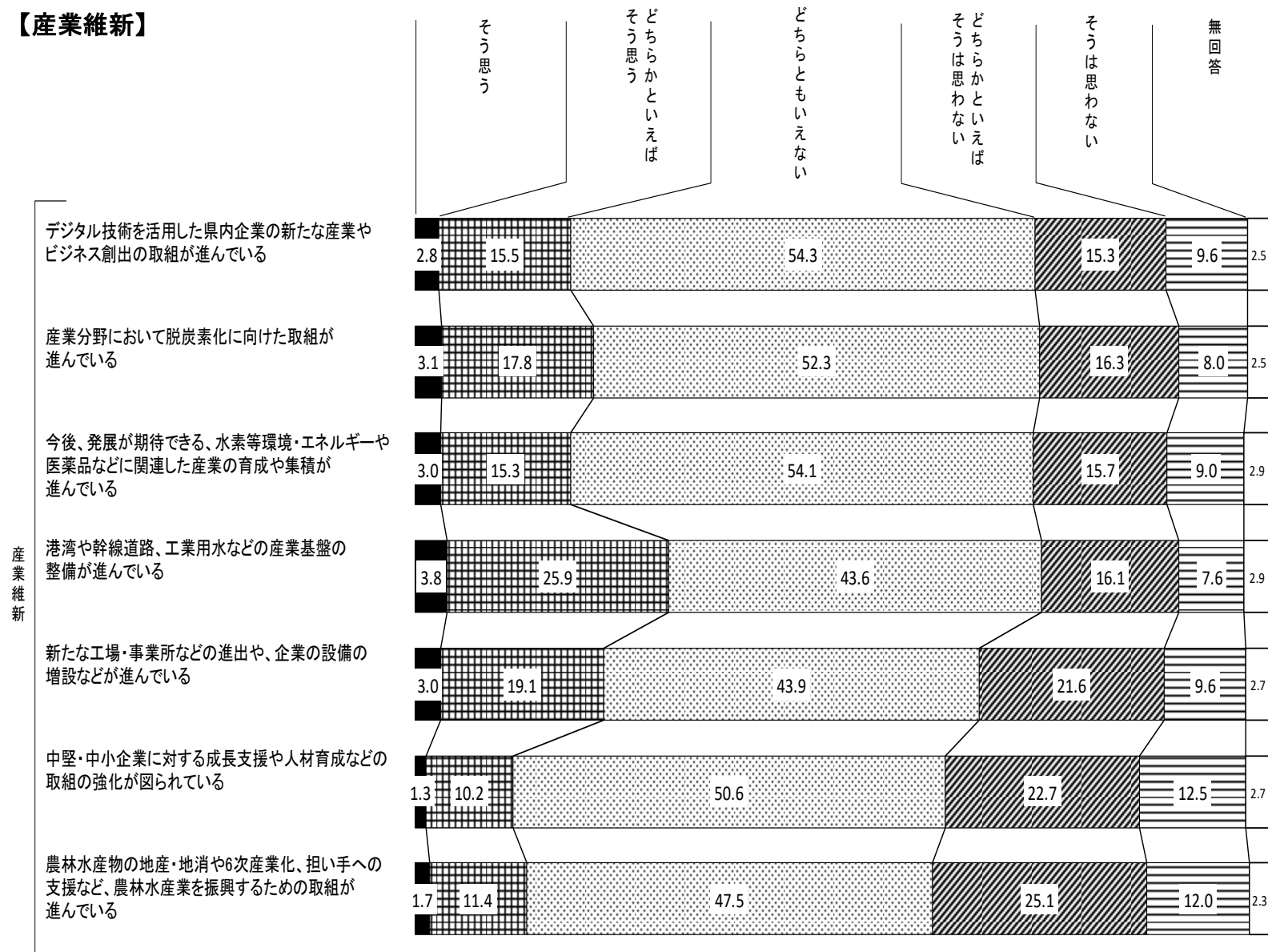
○今後の山口県への居住意向

今後の山口県での居住意向について、「これからも住みたい」と「可能な限りこれからも住みたい」を合わせた『住みたい（計）』が 87.2%となっており、昨年度と比較すると、『住みたい（計）』は 2.0 ポイント上昇し、引き続き、8 割後半の高水準にある。

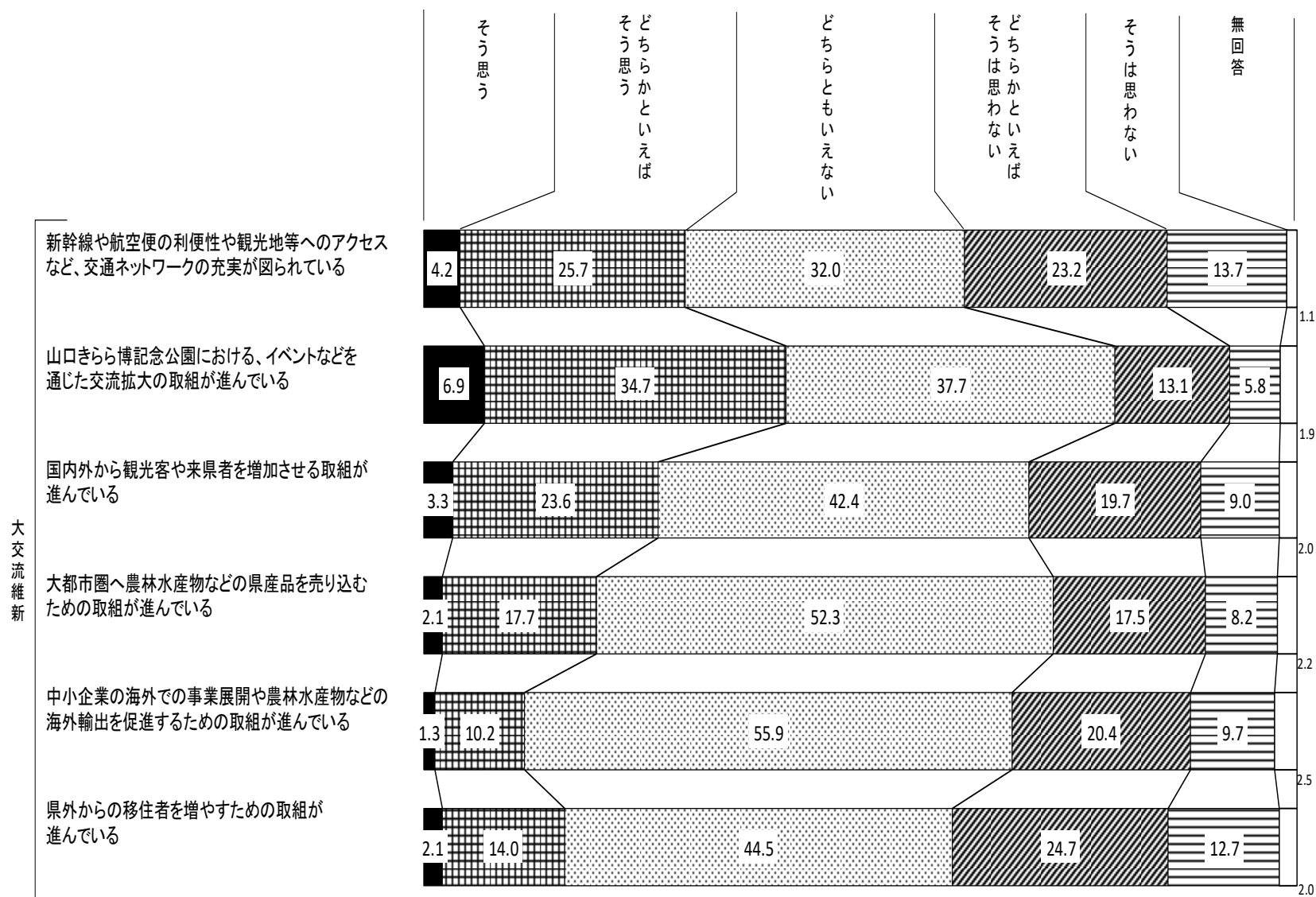


【県の取組に対する実感】「やまぐち未来維新プラン」の20プロジェクト等について

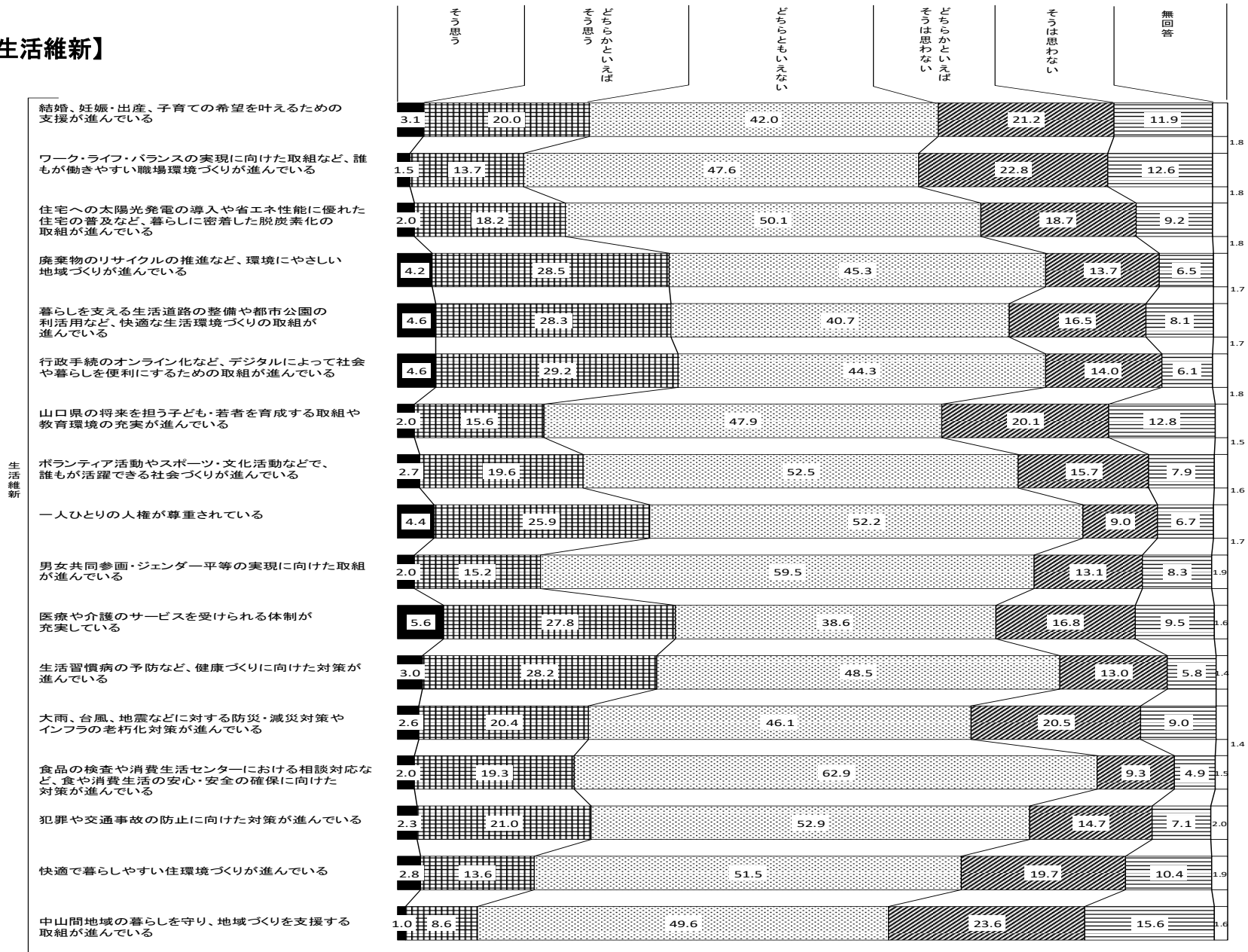
【産業維新】



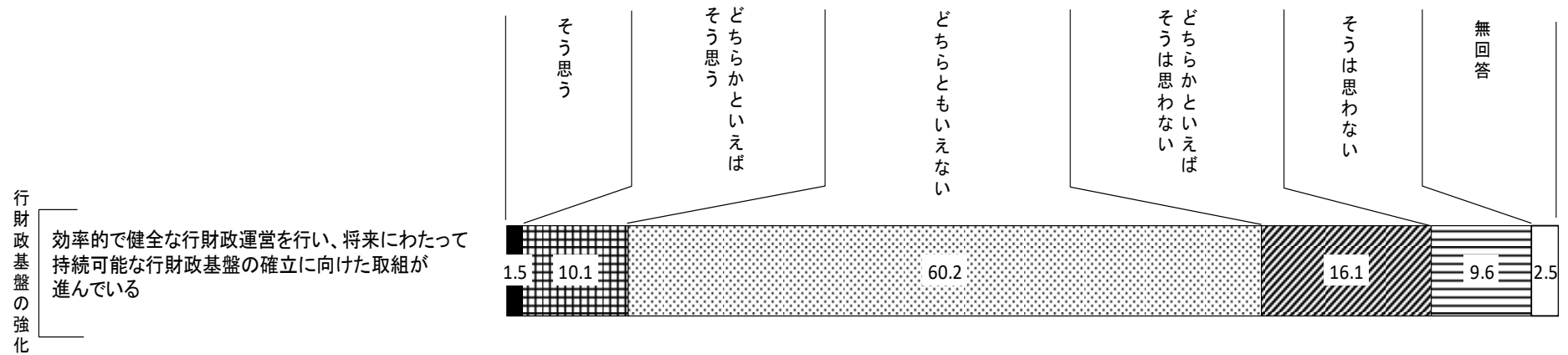
【大交流維新】



【生活維新】



【行財政基盤の強化】



○今後の県づくりにおいて、特に実現すべきだと思う分野

今後の県づくりにおいて、特に実現すべきだと思う分野について、「医療・介護、健康づくり」が17.8%と最も高く、次いで「生活利便性の向上（地域交通、住宅環境など）」が14.4%、「結婚・子育て支援」が13.0%、「中小企業の成長支援・雇用の安定」が11.3%の順となっている。

